

# **第23回議会報告会報告書**

**令和8年1月  
広聴広報委員会**

## はじめに

本市議会では、議会活動の状況を市民に分かりやすく伝えるとともに、市民の声を今後の議会活動に生かすことを目的として、議会報告会を実施している。平成24年8月に初めて開催して以来、今回で第23回目の開催となった、今回の議会報告会及び意見交換会“なしおふれあいトーク”は、常任委員会単位での3班体制とし、常任委員会の研究テーマについて各種関係団体等との意見交換会として実施した。

那須塩原市議会報告会実施要綱第11条の規定により、議会報告会報告書を本書のとおり提出する。

## 目 次

はじめに	1
1 第23回議会報告会実施概要	2
2 主な意見・要望・考察	4
3 まとめ	13

# 1 第23回議会報告会実施概要

## 実施体制について

- 今回の議会報告会は、常任委員会単位で報告会を実施した。
- 各常任委員会委員による3班体制により実施した。
- 対象は各常任委員会が所管する事項に関連する各種団体等とした。

## 内容について

### 全体の構成について

- 議会報告会の内容は2部構成で実施した。今回も前回同様、意見交換に重点を置き実施した。議会報告は簡略化し、ポイントを絞った報告資料を作成し、参加者に配布した。
- 第1部の議会報告は、定例会議の審査内容を一部抜粋して実施。質疑応答は行わず報告のみとした。
- 第2部の意見交換は、班ごとにテーマを設定して実施した。なるべく多くの参加者から意見聴取できるよう意見交換の時間を多くとった。

## 会場の設定及び参加者数について

### 会場設定について

- 各班で会場を設定した。

### 参加者数について

- 各会場合計41名

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
開催年月	H24.8	H25.11	H26.5	H26.11	H27.5	H27.11	H28.5	H28.11	H29.11	H30.5
参加者数	220	93	89	91	97	60	70	94	62	66

	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回
開催年月	H30.11	R元.6	R元.11	R2.2	R2.7.17~9.30	R2.11	R3.11	R4.5	R4.11
参加者数	78	23	70	152	72	29	97	38	51

	第20回	第21回	第22回	第23回
開催年月	R5.6	R5.11	R6.6	R7.11
参加者数	24	68	16	41

## 各班の実施状況

### 1 班（総務企画常任委員会）

開催日時	令和7年11月18日（火）午後6時30分～午後8時			
会場	那須塩原市図書館みるる			
対象	那須塩原市への移住者			
参加人数	10人（男性8人 女性2人）			
担当議員	班長	小島 耕一	司会者	星 宏子
	記録者	矢島 秀浩	記録者	相馬 剛
	受付	大野 恭男	受付	齋藤 寿一
	ファシリテーター	赤塚 茂昭	ファシリテーター	山形 紀弘
意見交換テーマ	移住定住の進め方 ・移住した理由・住んでみての感想 ・人が“このまちに住みたい”と思うには			

### 2 班（福祉教育常任委員会）

開催日時	令和7年11月21日（金）午後2時00分～午後3時30分			
会場	西那須野公民館			
対象	民生委員・主任児童委員			
参加人数	22人（男性10人 女性12人）			
担当議員	班長	佐藤 一則	司会者	林 美幸
	受付	平山 武	受付	中村 芳隆
	班員	松野 真弓	班員	星野 健二
	班員	齊藤 誠之		
意見交換テーマ	地域福祉（民生委員・自治会等）との連携強化について			

### 3 班（建設経済常任委員会）

開催日時	令和7年11月9日（日）午後1時30分～午後3時30分			
会場	東那須野公民館			
対象	若手農業従事者			
参加人数	9人（男性8人 女性1人）			
担当議員	班長	田村 正宏	司会者	堤 正明
	記録者	戸張 靖久	記録者	室井 孝幸
	受付	森本 彰伸	受付	松田 寛人
	ファシリテーター	小出 浩美	ファシリテーター	三本木 直人
意見交換テーマ	農業の担い手支援について			

## 2 主な意見・要望・考察

### 1 班（総務企画常任委員会）

テーマ：移住定住の進め方

#### 主な意見・要望

##### 【移住した理由】

- ・東京は近隣が近く広い場所を求めた。
- ・子育て環境を考慮して移住した。
- ・新規就農を目指して、移住した。
- ・夫婦ともリモートワークになった。
- ・自然の中で遊べる環境を求めた。
- ・景観が良い所に住みたかった。
- ・街が変わっていくワクワク感があり、将来性が感じられる。
- ・災害が少なく安全な場所。
- ・自然と人が暮らす街の近さやスポーツをするにも良い環境。
- ・ペットや子供の住環境が良い。
- ・首都圏と違って隣人との距離があり、子供が騒いでも気に留めないで済む。
- ・新幹線で東京まで近い。（通勤、通学の利便性）
- ・車の制限がない。
- ・立地のバランスが良い。（思ったより温暖）
- ・移住コーディネーターの対応が良かった。
- ・地域住民との付き合いが楽しく、外から来た人を快く受け入れてくれる。

##### 【住んでみての感想】

###### 〈良い点〉

- ・新幹線や高速道路へのアクセスが良い
- ・空気がきれい。
- ・マラソンやロードバイクなどスポーツに良い。
- ・黒磯がおしゃれ、東京ロスが無い。
- ・図書館みるるに歩いて行ける。
- ・家賃が安い。
- ・チーズやソフトクリームがおいしい。
- ・食生活が豊かになった。
- ・移住者が多いのでよそ者感がない。
- ・災害が少ないところと感じる。
- ・不便が少ない。
- ・物価は東京に比べ安く感じる。
- ・おしゃれで良い飲食店が多い。（特に黒磯）
- ・田舎なのに飲み歩ける。
- ・おすそ分けが多い。

- ・自然に触れながらのびのびと子育てできる。
- ・地域イベントが多くクオリティーも高い。

### 〈悪い点〉

- ・冬が寒い。
- ・雇用の確保が難しそう。
- ・車の運転が荒い人が多い。
- ・病院が少ない。
- ・医療関係の充実がまだ不十分。
- ・意外と暑い。（避暑地ではない？）
- ・キャッシュレス決済の浸透が遅れている。（おいしい店に限って現金払い）
- ・リモートワークができるスペースが少ない。
- ・生活に車が必須。（買い物、子供の送迎など）
- ・虫が多く、風も強く、冬の寒さも厳しい。
- ・古い住居だと空き家のメンテナンスが必要。
- ・夜間にやっているクリニックが少ない。

### 【人がこのまちに住みたいと思うには】

- ・まちの良さを深掘した情報の発信。
- ・「仲間がいる」と感じてもらえること。
- ・初等教育以上の教育の充実。
- ・新幹線の定期券ではなく回数券があるといい。
- ・夜のまちが暗い、街灯が少ない。
- ・外から見た那須塩原市の良さを発信すると良い。
- ・教育や暮らし方の選択肢の提案があると良い。
- ・職種を増やす。（事務系の仕事が少ない）。
- ・公共交通の充実。
- ・食の豊かさをもっとアピールする。
- ・専門的な医院の充実（子供がかかる病院が少ない）
- ・住民に温泉の割引券があると良い。
- ・移住者どうしの交流の仕組みがあると良い。
- ・ファミリー向けの戸建て賃貸物件が少ない。
- ・保育園に途中からでも入りやすくなれば良い。
- ・「東京から70分」の先を伝える：新幹線での近さだけでなく、「実際に住んだらどうなるか」という具体的な生活環境（日常、教育、レジャー）の情報を発信する。
- ・ワーケーションやお試し居住（1週間など）の機会を増やし、移住希望者が「この街での自分の日常」を鮮明にイメージできるようにする。
- ・既に盛んな移住者交流をさらに充実させ、移住者が地域に「友達」を作りやすい環境を整備する。
- ・既に整った場所としてアピールするよりも、「自分たちの手で面白い暮らしを作り出せる」という楽しさ、地域参加の魅力を打ち出す。

- ・教育の多様化:軽井沢などと比較される中、小学校以降の教育の選択肢（公立以外の多様な教育）を増やす。
- ・那須の魅力である美しい自然を満喫できるエリアにも、賃貸住宅の供給を増やす。
- ・空き家を借りたい人と貸したい人のマッチングを容易にし、住居探しの利便性を向上させる。

## 考察

意見交換会では、本市の自然環境や交通利便性、子育て環境などが高く評価される一方、医療体制や雇用、公共交通、教育環境といった生活基盤に関する課題が示された。特に、移住後の具体的な暮らしをイメージできる情報発信や、移住者同士・地域とのつながりを支える仕組みの重要性が確認された。



## 2班（福祉教育常任委員会）

### テーマ：地域福祉（民生委員・自治会等）との連携強化について

#### 主な意見・要望について

#### 民生委員からの現状と課題（A・B班）

##### 1-1 生活環境・移動支援

- ・道路の陥没や冠水しやすい箇所があり、高齢者・障害者が安全に運転できない状況がある。
- ・少子高齢化に伴う免許返納が増加し、買い物難民への対策が急務。
- ・ゆーバスの停留所が遠く使いにくい、ゆータクが高額で通院に回数制限が生じるなど生活交通が十分に機能していない。
- ・スーパーによる送迎サービスなど、民間と連携した移動支援を導入してほしい。

現在は民生委員が送迎しており、負担が大きい。

##### 1-2 生活困難者支援

- ・高齢者がゴミ捨てに行けずにゴミ屋敷化する事例が出ている。
- 愛知県一宮市のような「高齢者向け戸別回収」を本市でも検討してほしい。
- ・救急搬送時に高齢者だけだと受入れ拒否となるケースがあるとの指摘。
  - ・外国人住民のゴミ出しルールが理解されておらず、多言語化等の対策が必要。

##### 1-3 地域安全・通学路

- ・ライスラインの横断歩道廃止や、横断旗が警察管轄で市が対応できない等、通学路の安全確保に不安。
- ・グリーンゾーンの枝の張り出しで通行困難。

##### 1-4 民生委員活動の限界

- ・後任が見つからない、活動の高齢化が進む。
- ・自治会弱体化で地域情報が入らず、支援対象者の状況把握が難しい。
- ・学校側が民生委員に不信感を持つ場合があり、連携がうまくいかない。個人情報提供がなく、対応につなげられない。

#### 民生委員からの対策提案（A・B班）

##### 2-1 移動支援・生活支援の強化

- ・スーパー送迎の事業化や市補助金活用。
- ・ゆーバスのダイヤ・ルートの見直し。
- ・高齢者向けのゴミ戸別回収の導入検討。

##### 2-2 地域づくり・居場所づくり

- ・空き家の活用による高齢者・子どもの居場所づくり。
- ・荒地をスケートボード場として活用するなど、若者の活動の場を増やす。

### 2-3. 行政連携・学校連携の改善

- ・ 民生委員への情報提供の仕組みの改善。
- ・ 学校対応の統一、市としての支援方針の明確化。
- ・ 個別計画（個人情報管理）の見直し。

### 2-4. 民生委員活動の体制強化

- ・ 懇親会・リーダー会議等を通じ委員間の連携強化と役割周知を図る。
- ・ 海老名市の事例など、他自治体の好事例を参考にする。

## 主任児童委員からの現状と課題（C・D班）

### 3-1 役割・体制に関する課題

- ・ 役割が固定化されており、地域でやり方が大きく異なるため、市内での統一が必要。
- ・ 民生委員と主任児童委員の役割の違いに対する誤解がある。  
（「民生委員は高齢者だけ担当」といった誤認）

### 3-2 学校との連携不足

- ・ コロナ以降、入学式・卒業式・行事への招待が減少し、学校との距離が広がった。
- ・ 学校が主任児童委員を必要と感じておらず、認知が進んでいない。
- ・ 支援が必要な家庭の情報が共有されず、つなぎ役として機能しにくい。
- ・ 教員や保護者から相談はあるが、学校側が積極的に連携しない状況もある。

### 3-3 家庭・地域とのつながりの希薄化

- ・ 子ども会の減少、地域の行事減少で、子どもと直接会う機会が少ない。
- ・ そもそも支援が必要な家庭がHELPを出しにくい社会状況。
- ・ 子ども食堂にも来られない家庭へのアプローチが難しい。

### 3-4 児童福祉分野の新しい課題

- ・ 不登校の増加（「無理に行かなくてよい」という風潮も背景）
- ・ LGBTQ理解の拡大、学校給食の質の向上など、学校生活基盤への要望。

## 主任児童委員からの対策提案（C・D班）

### 4-1 学校との協働体制の構築

- ・ 校長が支援に理解を示すことが不可欠。
- ・ 学校評議員（学校運営協議会委員）などに主任児童委員が入る仕組みづくり。
- ・ 行事やボランティア参加を通じた、学校から見える存在づくり。
- ・ 夏休みの要保護・準要保護家庭への支援強化。

### 4-2 地域連携の強化

- ・ 民生委員との歩調を合わせた対応。
- ・ 町内会の会議に継続して参加し、地域の情報を得る仕組みを継続。
- ・ 問題家庭の近隣住民からの情報提供が支援にとって重要。

#### 4-3市としての支援体制の標準化

- ・ 市内3地区（黒磯・西那須野・塩原）のやり方を統一してほしい。
- ・ 同行できる新生児訪問など、早期把握につながる仕組みの導入。

#### 4-4児童委員活動の質向上

- ・ 児童委員同士の意見交換会の設定。
- ・ 子どもの居場所スタッフへの研修や共通理解づくり。
- ・ DV疑い時の判断・連絡体制の整理（児相への通報のハードルが高い）。

#### 報告会の運営について

今年度のテーマである「困難な問題を抱える女性への支援」「地域と学校の連携・協働のあり方」を「地域福祉との連携強化」の視点で意見交換を行った。

対象者を、民生委員と主任児童委員に分け、① 現状と課題について、②対策についてのふたつのテーマで課題を深掘りして話合うことができた。

それぞれの委員が活動をするなかでの課題が整理され、活動をする上での対策と、民生委員、主任児童委員の成り手確保に向けた、サポート体制の連携と強化が必要であるため、引き続き福祉教育常任委員会として調査研究と政策提言に努める。

#### 考察

意見交換会では、民生委員・主任児童委員が地域支援の重要な役割を担う一方で、担い手不足や活動の高齢化、学校や行政との連携不足といった課題が明らかとなった。今後は、役割や支援体制の整理・標準化を図り、地域・学校・行政が連携した支援体制の強化が求められる。



### 3班（建設経済常任委員会）

#### テーマ：農業の担い手支援について

#### 主な意見・要望について

##### 【農業を営む上での現状における課題】

- ・ 飼料・資材高騰で採算が悪化している。
- ・ 価格を上げなければ農家が潰れる。
- ・ 基盤整備が進まず、機械を入れても効率化が進まない。
- ・ 集落営農はうまくいっていない例が多く、法人化の方が現実的。
- ・ 輸入作物飼料が高騰している。
- ・ 農作物ごとの単価が安すぎる。資材高騰で作物の価格も上げないとダメ。
- ・ イノシシやクマなどの獣害が増加している。
- ・ イチゴ農家は、ハクビシンが多く困っている。
- ・ 生産者が高齢なので新たな投資が出来ない。

##### 【生産者としての思いや感じていること】

- ・ “安全でおいしい”という日本農産物の価値を正しく評価してほしい。
- ・ もっと収入があると良い。
- ・ 休日が欲しい。
- ・ 時給に換算するとかなり安い。
- ・ 非農家の方のほうがやる気が高い。
- ・ 中国や諸外国の農作物を比較すると国産は安心である。

##### 【次世代への継承や新規就農者の増加における課題や懸念】

- ・ 新規就農者ばかりが支援の対象で、親元就農や中規模農家にはほとんど補助がない。
- ・ “頑張っているが利益が出ず、子が継がない”という層が最も苦しい。
- ・ 後継者不足。
- ・ 初期投資が高く新規就農が難しい。
- ・ 農地を取得しやすくして欲しい。
- ・ 親元への支援が必要。

##### 【市（行政）への思いや考え】

- ・ 新規就農者ばかりが支援の対象で、親元就農や中規模農家にはほとんど補助がない。
- ・ 補助金の手続きが煩雑で使いにくい。
- ・ 書類が多すぎて、高齢の生産者はほぼ使えない。
- ・ 新しく出てきた商品だけを支援するのではなく、市が最初から育てる仕組みが必要。
- ・ ホルスタイン共進会に那須拓陽高校が出場しているが、市としての応援が弱い。

- ・観光地として地元産をもっと売りにすべき。食べられる場所が少なすぎる。
- ・小規模農家が使える補助制度がほぼ皆無。小規模でも補助金が出ると良い
- ・市は、県から言われないと動かない、と感じる。
- ・30億円の剰余金があるなら、農業への投資を強化すべき。
- ・農業をやりたい人と土地を持っている人のマッチングを行政が行って欲しい。

#### **【委員として考えた現状の課題対策や農業の担い手支援の充実に必要なこと】**

- ・市としても、物価高騰対策や適正価格の周知を国・県と連携して進めたい。
- ・ブランド化・地産地消の強化により“値段がつく農業”を支える方向で検討していく必要がある。
- ・親元就農への支援不足は、市議会でも課題として取り上げていく必要がある。
- ・小規模・中規模農家が使える補助制度の拡充が必要。
- ・国や県支援の隙間を埋める、那須塩原市独自の小規模支援の可能性を研究する。
- ・市議会としても、長期的な予算確保を視野に入れる。
- ・基盤整備について計画的実施を求めていく。
- ・既存の強みを「市として育てていくブランド戦略」が必要。
- ・若手の挑戦は“担い手育成そのもの”。市が応援する体制をつくるよう求めていく。
- ・地産地消の推進は議会としても後押しする。
- ・剰余金の使途についても議会として議論を深めていきたい。

### **報告会の運営について**

#### **【当日の運営について】**

- ・企画部長も参加したことについては参加者もうれしかった様子である。農業の担当部局の職員に参加してもらっても良かったのかもしれない。
- ・意見交換、意見の集約、発表準備、発表という過程を踏んで進行したが、この発表準備の段階で、参加者が意見交換で出た意見を付箋に書き込む時間が生じた。この時間はもったいなかったため、付箋は最初に参加者に渡して、他の方が話しているあいだ、アイデアが浮かんだ時に書くようにしてもらったための声掛けなどの工夫が必要だった。
- ・ワークショップの進行について、今回途中でメンバーの入替を行うことで時間不足となり意見の集約・整理、発表用の掲示物の作成ができず、付箋紙、大判用紙が活用出来ず無駄になった。大判用紙等を利用して発表を行うのであれば、メンバーの入替はせず、まとめの時間を設けるべきであった。

#### **【今後活かすためには】**

- ・常任委員会の研究テーマが「持続可能な農業の推進」であり、報告会のテーマを「農業の担い手支援」とした。報告会のテーマをもう少し具体的にしぼ

りこむべきだったか否か、結果として何を求めるのか、そういった点について研究の余地が残る。

- ・意見交換で出た問題に対して、委員会として今後どの様に対応していくのが課題として残されている。
- ・単なる意見交換で終わらないように、形として実践されていくことが、議会への信頼や期待という観点からも必要である。

### 【その他所感】

今回の意見交換会では農業をテーマとして実施した。参加した議員の中には農業に対し余り詳しくない者もいたが、現場の話しを聞くことで、農業に対する理解が深まったのではないかとと思われる。

### 考察

意見交換では、物価高騰や後継者不足など、農業経営を取り巻く厳しい現状が共有された。新規就農者だけでなく、親元就農者や既存農家を含めた幅広い支援の必要性が示され、持続可能な農業の推進に向けた中長期的な視点での取組が重要であるとの認識が得られた。



### 3 まとめ

第23回議会報告会は、常任委員会単位による3班体制で実施し、各委員会の研究テーマに即した関係団体等との意見交換を中心に行った。各会場では、市民や関係者から現場の実情に基づく具体的な意見や要望が数多く寄せられ、地域が抱える課題を改めて共有する機会となった。

また、意見交換を重視した運営により、多様な意見を聴取できた一方で、テーマ設定や意見の整理・活用方法については、今後の検討課題として残された。今回得られた市民の声を、各常任委員会の調査研究や政策提言に着実につなげ、成果を市民に分かりやすく発信していくことが、議会への信頼向上につながるものとする。